

**OBSに参加した人
100人に聞いてみました！**

**“OBSの影響力”
～あなたはどうでしたか？～**

2006年7月20日

【調査者】

(財)日本アウトワード・バウンド協会

【調査協力者】

伊原久美子

(びわこ成蹊スポーツ大学)

【1. 調査の概要】

財団法人日本アウトワード・バウンド協会（略称 OBS）は、1989 年に長野県小谷村に常設校を開き、青少年の健全育成に取り組んできた。その理念は、OBS の創始者クルト・ハーン（1896～1974 年）から時代を超えて受け継がれている。それは、自発的で、挑戦意欲にあふれ、粘り強く、そして自制心、思いやりがある人間を育てることで、現代文明社会が健全さを維持できるという考えである。現在では 30 カ国に広がっている OBS の特徴は、自然の中での冒険的な活動を教材としていることである。

2006 年、日本 OBS は財団法人となったことを機会に、過去 17 年間の実践を検証することにした。その理由は、参加者が日本 OBS で学んだことを実生活で活かしているのだろうか、という素朴な疑問である。日本 OBS では「実行型市民の育成」（1998 年まで）「社会の中で自己実現できる人を育てる」（1998 年以降）を組織の使命として、教育プログラムを提供してきた。本調査は、日本 OBS の参加者が受けた長期的な影響をみる一つの試みである。

【2. 調査方法】

2-1. 対象者

過去 17 年の日本 OBS 参加者 646 名を対象に、2006 年 2 月 23 日から同年 3 月 11 日の間に郵送により調査を依頼し、そのうち回答のあった 109 名を対象とした。

対象者は、男性 59 名、女性 49 名、未記入者 1 名。また現在の平均年齢は 34.5 歳、参加当時の平均年齢は 27.3 歳であった。

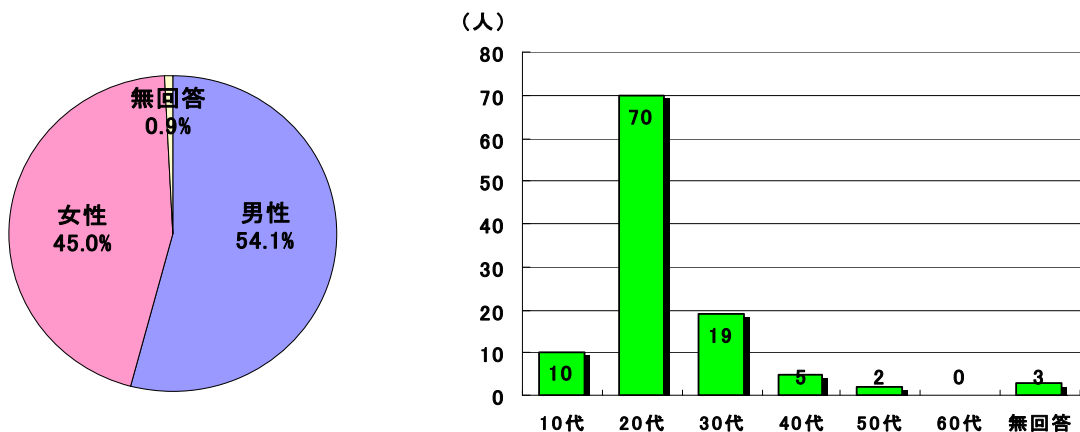


図-1 対象者の性別

図-2 参加当時の年齢

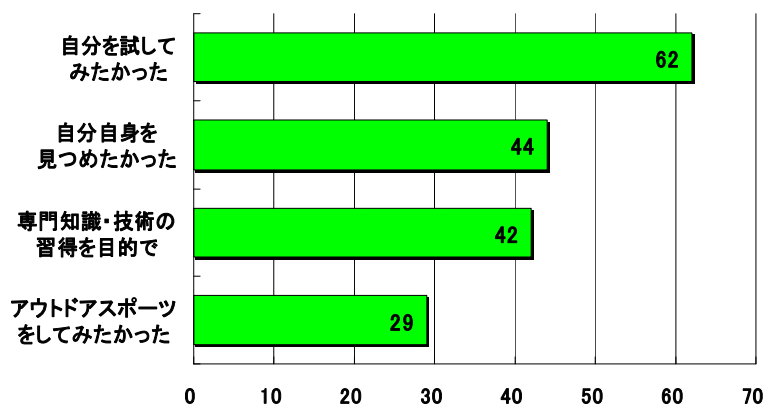


図-3 参加の動機（上位 4 項目）

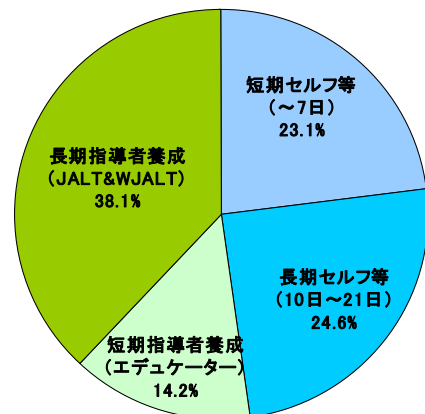


図-4 参加コースの内訳

2-2. 調査内容

OBS 体験の効果を見るために、日本 OBS で 15 年間プログラム企画・指導に携わるスタッフが質問する項目を抽出し、作成した。項目の内容は、OBS 体験の影響について、変化をうけた内容やその活動、また、現在まで続く変化などである。回答は、“とてもよくあてはまる”を 4 点、から“まったくあてはまらない”を 1 点として、4 段階評定で実施した。

2-3. 分析方法

質問項目を単純集計し、以下の観点で比較するために t 検定を実施した。

- ・参加時の年齢の比較（12～25 歳と 26 歳～57 歳）
- ・一般コース期間の比較（～7 日と 10～21 日）

【3. 結果と考察】

◆単純集計◆

3-1. OBS コースから受けた影響と自分の変化について

「これまでのあなたの人生で、OBS 体験はどの程度の影響がありましたか？」

「あなたは、コース後、自分自身にどんな変化がありましたか？」

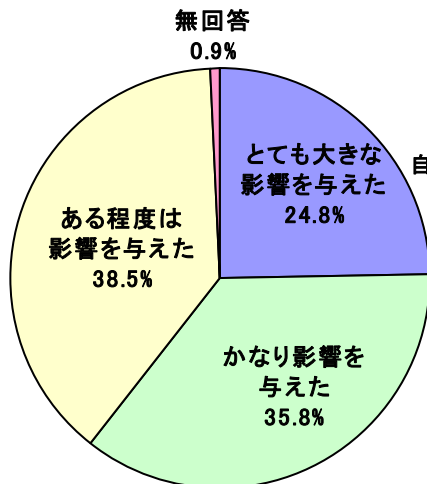


図-5 OBS 体験の影響度

- 「とても大きな影響を与えたと感じる」
 ・ ・ ・ ・ ・ 7 名 (24.8%)
- 「かなり影響を与えたと感じる」
 ・ ・ ・ ・ ・ 39 名 (35.8%)
- 「ある程度は」
 ・ ・ ・ ・ ・ 42 名 (38.5%)

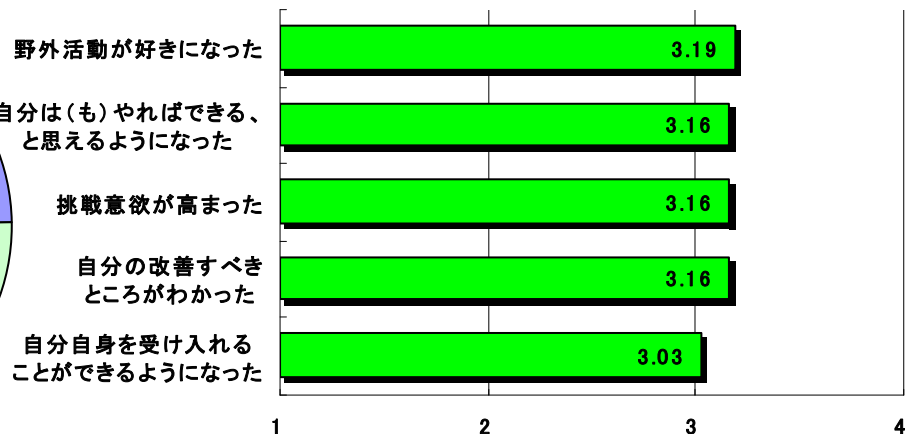


図-6 自身の変化の内容(上位 5 項目)

上位 5 項目の平均値を示した。
 「野外活動が好きになった」、「自分は(も)やればできる、と思えるようになった」、「挑戦意欲が高まった」、「自分の改善すべきところがわかった(再認識を含む)」、「自分自身を受け入れることができるようになった」の順であった。

【考察】OBS 体験から「かなり」「とても」影響を受けている人は、全体の 60%以上であることがわかった。コース後の自分の変化については、その活動が「好きになる」という志向性の変容が見られた。また、身体的・精神的に容易でないプログラムの達成経験から「やればできる」といった自己効力や自分の可能性への気づき、そして「挑戦意欲の高まり」を感じていることが明らかになった。さらに、自分自身に関する変容は、自己の限界に挑むプログラムやグループで話し合う“ふりかえり”といった OBS 特有の方法が影響している可能性がある。

3-2. 自分の変化と活動の関連について

「どんな活動や場面が、自分の変化に影響をあたえましたか？」

平均点は、無回答もしくは「0(やっていない)」に回答した者を除外して算出した(Nの数)。

平均値が高い項目は、「登山(1泊2日以上)」、「自転車(1泊2日以上)」、「沢登り」、「参加者どうしの自由な会話、意見交換、討議など」であった。

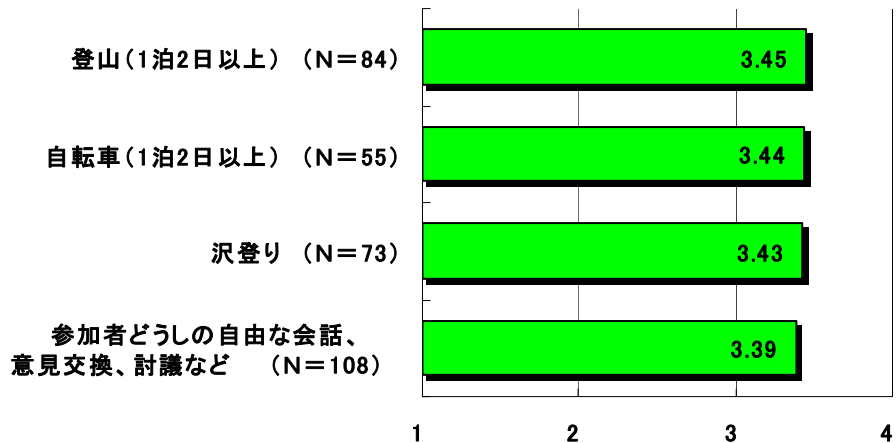


図-7 変化を受けた活動や場面(上位4項目)

【考察】上位の「登山」、「自転車」にみられる遠征型の活動は、メインチャレンジとして位置付けられることが多く、ダイナミックでスケール感が大きい。その一方で、精神的、身体的な負荷が高く、自分とじっくり向き合う場になりやすい。「沢登り」は、息を吸う間もないほどの水圧に挑むその一瞬に全身全霊をかける。その繰り返しが変容を促す可能性がある。「参加者同士の自由な会話」は、公式のふりかえりの場面でなくても、体験の意味を探ったり、深めたり、参加者同士の相互理解が進んでいたこと、つまり自発的なフィードバックが行われていたことが考えられる。

3-3. 自分の変化の持続について

「今のあなたは、その変化が持続していると思いますか？」

高得点の項目は、「野外活動が好きになった」、「自分は(も)やればできる、と思えるようになった」、「挑戦意欲が高まった」、「自分自身を受け入れることができるようになった」の順であった。「自分の改善すべきところが分かっている(2.97)」「他人を思いやれる(2.98)」「チームで助け合える(2.98)」も高得点であった。

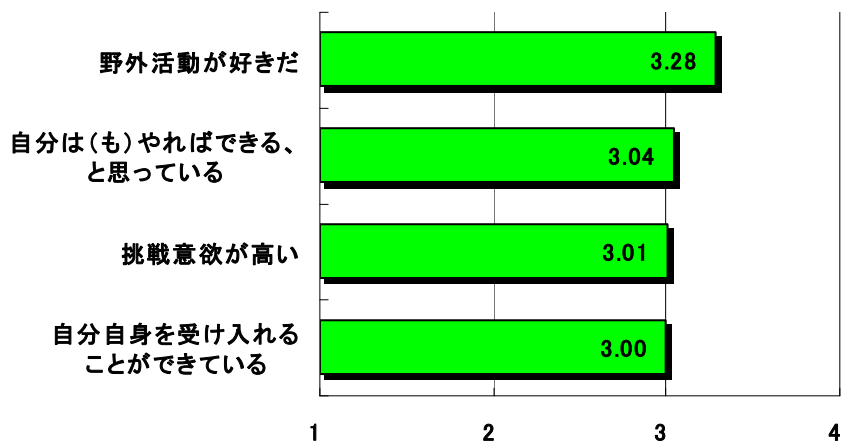


図-8 自身の変化の持続内容(上位4項目)

【考察】上位の項目は、コース後の自分の変化と同様の結果であった。時間が経過した現在でもコース後の変化が継続していると感じていることがわかる。これを、日本OBSの使命と照らし合わせてみると、「実行型市民の育成」(1998年ごろまで)、「社会の中で自己実現できる人を育てる」(1999年以降)、知識や技能という特殊なスキルを除いて、生きる姿勢、他者と関わるスタンスという精神的な面においては、使命が果たされてきたといえる。

◆さまざまな比較◆

参加時の年齢の比較 「年齢で影響は違うの？」

12～25 歳（若い方：50 人）、26～57 歳（年配の方：58 人）で比較した。

参加時の年齢が若い方が有意に高い項目

〔自分の変化〕

- ・ 自分は（も）やればできる、と思えるようになった
- ・ 挑戦意欲が高まった

〔影響を受けた活動〕

- ・ 参加者どうしの自由な会話、意見交換、討議など
- ・ 自転車（日帰り）

【考察】OBS が募集するセルフディスカバリーコースの対象者は、社会へ出て行く時期の青年層が対象であることを考えると、若い参加者の高得点の結果は OBS の意図が反映されていると思われる。若い方は年輩の方と比較して、自己の内面的な変化を認めることや参加者同士が話し合うことに対して積極的であり、抵抗が少ないことが考えられる。このことから、グループ編成における年齢のバランスやグループ構築は、上記の差を考慮する必要があることが示唆される。

コース期間の比較 「コースの長さで影響は違うの？」

指導者養成を除いたコース期間を、3～7 日まで（短期コース：26 人）、10～21 日まで（長期コース：22 人）で比較した。

長期コースの方が有意に高い項目

〔自分の変化〕

- ・ これまでの人生で OBS 体験は影響があった
- ・ 積極性が増した

〔変化の持続〕

- ・ 積極性が増した

【考察】OBS コースは、自分と向き合う、自分自身の課題を克服し、チームとしても成長していく、この経験を繰り返していくことによって、達成意欲を高めたり、対人関係のスキルを身につけたりしていく、というプログラムデザインをしている。したがって、長期コースの方が学習を反復することが予想できる。その結果が「人生への影響度」、「積極性が増した」に反映したと考えられる。

【4. 結論】この調査でわかったこと！

1. OBS コース体験は、参加者の人生に影響を及ぼしている。
その場面は、遠征型の活動（登山、自転車）、沢登りなど、自然をダイナミックに使ったスケールの大きい活動であり、精神的、身体的に負荷の高い活動で想起されている。
2. 参加年齢は、一部に若い方に与える影響が大きい。
3. セルフディスカバリーコースは、一部に長期コースの方が参加者の人生に与える影響が大きい。

（本調査は、2006 年 6 月の日本野外教育学会第 9 回大会にて研究発表したものに加筆・修正した。）